

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和5年12月3日(日)
会場：大宮ソニックシティ
テーマ：Let's connect!
サブテーマ：臨床検査技師になってよかった
～人との出会い・検査との出会い～



「運営部を担当して」

第51回 埼玉県医学検査学会
運営部 池田 裕

第51回埼玉県医学検査学会の運営部を担当させていただいております、さいたま市立病院の池田裕と申します。学会当日までいよいよ残り1ヶ月を切り、開催に向けて実行委員一丸となって最後の準備を進めています。

運営部ではその一環として、協賛企業の方々と企業展示の最終調整を行っています。今学会の企業展示は広々とした市民ホールで開催し、参加いただく企業様も昨年にも増して総勢12社におよびます。各社の製品が集まるこの機会に、ぜひ見て聞いて触れて…皆様の中で繋がりを感じていただけたらと思います。

今学会は学会企画講演をはじめ、市民公開講演、青年部企画、研究班セミナー、展示・クイズコーナー、各演題など企画が盛りだくさんで目移りしてしまうかもしれませんが、ぜひご都合のつくタイミングで企業展示にもお立ち寄りください。

学会開催まで残りわずかとなりましたが、学会ホームページ、学会公式LINE、埼臨技会誌特集号などをご覧いただきながら当日をお楽しみにお待ちください。実行委員一同、大勢の方のご参加をお待ちしております。

「運営部を担当して」

第51回 埼玉県医学検査学会
運営部 金井 知芙優

第51回埼玉県医学検査学会にて運営部を担当しております、川口市立医療センターの金井知芙優と申します。主に備品類の確認や、会場に掲載する案内類の作成を担当しています。

今回、市民ホール4Fでは学会企画として、各方面の先生方による腸内フローラや科搜研のご講演、また本学会のテーマである繋がりに関する講演を行います。また、小ホールでは市民公開講演として日本製鉄かずさマジック監督（元 WBC日本代表）渡辺俊介氏のトークショー、山村国際高等学校ダンス部ステージパフォーマンスを企画しています。今年は野球・ラグビー・バスケットボール・バレーボール等々スポーツが熱い年ですね！（私はワールドカップバレー2023女子の観戦に行ってきました！）どのようなトークやパフォーマンスが披露されるのか、とても楽しみです。

各会場に市民ホール⇄小ホールの行き方を掲示しますので、是非どちらの会場にも足を運んでいただけたらと思います。

私自身、初めての実行委員で分からないことだらけですが、多くの方にご指導いただきながら運営部の一員として携わせていただいています。参加した皆様が、また明日から臨床検査技師になってよかったと胸を張ってご活躍できますよう学会運営に努めて参ります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



令和5年度 第1回 ワークライフバランス推進委員会研修会

テーマ **“ワーク” “ライフ” のバランスって何？
～ 仕事と私生活、充実していますか？ ～**

実施日時：令和5年9月23日（祝） 10時00分～11時30分

会 場：Web開催

講 師：梶山 広美（一般社団法人 岡崎市医師会）

林 佑樹（株式会社 松竹エンタテインメント）

参加人数：会員38名

越谷市立病院

石井 直美

令和5年9月23日（土祝）ワークライフバランス推進委員会主催の研修会が、Webにて開催された。これは令和5年2月12日（日）に現地開催した研修会を録画配信するという、新たな試みの研修会であった。

2月の研修会にも出席したが、ワークライフバランスという課題の実現に向けて、復習として今回も聴講した。

梶山氏の講演では、ワークライフバランスとは「仕事」と「私生活」が調和し、共に充実していることを理想とするが、人によっていろいろな捉え方があり、自らの意思で選択できることが大切であるとのことであった。私生活が充実することで、仕事にも集中できるという相乗効果を期待するために、まずは職場環境の整備が必要で、皆が無理せず理想とする形に近づけられる方法を考えていきたい。

林氏の講演では、美しい所作が見どころの1つでもあり、にじみ出る人柄も感じ取れ、現地での参加のほうがお勧めではあったが、Webでの立ち振る舞いも素敵であった。頻繁に話されていた「ご縁に恵まれてきた」という言葉や、「コミュニケーションをとって人柄を知ることによって信頼関係が生まれる」という内容が印象的で、人と人との関わり合いを大切にしていきたいと感じた。

研究班研修会報告

テーマ **薄切の知識を深めよう ～ 基礎からトラブルシューティングまで ～**

主催 病理検査研究班

実施日時：2023年5月11日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講師：末吉 徳芳（サクラファインテックジャパン株式会社）

小島 朋子（自治医科大学附属さいたま医療センター）

参加人数：会員290名 非会員1名

出席した研究班班員：関口久男 森田繁 高橋俊介 小島朋子 細沼佑介 今村尚貴 遠山人成
松本祐弥 三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回は「薄切の知識を深めよう ～基礎からトラブルシューティングまで～」をテーマに開催した。

末吉氏は「薄切のコツとポイント」と題して、薄切におけるパラフィンの使い分けやマイクロトームの構造、替刃の特徴に至るまで解説をした。病理診断において病理標本作製は根幹となる部分であり、薄切は顕微鏡観察に耐えうる薄さで切ることが肝要となる。パラフィンは組織片を薄く切るために硬度を与えるものであり、その性状は融点、針入度、粘度によって異なっており、最適な薄切を行うために性状の異なるものを混合することも良く、末吉氏はパラフィンワックス140と115を混合しているとのことであった。替刃について刃角度の小さいものは逃げ角を小さくすることができるため、薄い切片を作ることに適しているが、耐久性に乏しい。一方、刃角度の大きいものは、耐久性がありたくさんのブロックを薄切する業務において有用であるとのことであった。

小島氏は「薄切時のトラブルと対処法」と題して、初心者に起こりやすいトラブルと原因、対策について、また薄切技術の向上について解説した。面出し時に鏡面にならず、白っぽく毛羽立ったようになる場合の原因として、固定不良、パラフィン浸透不足、荒削りの切削厚が大きすぎる・早すぎる等が考えられる。対策としては、まずこれらの原因を取り除くことであり、追加として刃を交換する、加湿する等の工夫も有効とのことであった。薄切技術の向上の一助として、薄切スピードを数値化（可視化）することが大切であり、（薄切ブロック数）/（要した時間）から単位時間当たりの薄切数を算出、グラフ化することで、モチベーションの維持や達成度、課題等がみえてくるとのことであった。

今回の研修会が、病理検査を始めて間もない方にとって日常業務の参考になること、また新人職員を教育する立場の方にとって基本の再確認となれば幸いである。

（文責：三鍋慎也）

テーマ **新人対象向け生化学の基礎知識 ～ 測定原理から生化学のあれこれ ～**

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2023年6月23日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科－20点

講師：福島 渉（獨協医科大学埼玉医療センター）

小林 麻里子（北埼玉医師会立メディカルセンター）

参加人数：会員52名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太朗 小林麻里子 巖崎達矢 石川純也 廣瀬良磨
杉村楓 松重萌衣 福島渉

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、「新人対象向け生化学の基礎知識」というテーマで、日当直者向けに1題、生化学の初心者向けに1題の2講演があった。

福島氏の「日当直に役立つ生化学検査」の前半内容では、基礎知識として採血管の種類や遠心条件など採取から前処理に始まり、溶血や乳びの外観異常を実際のデータと並べて解説があった。測定結果がおかしいと感じた場合は、採血の採りなおしや医師への報告をすることで臨床と乖離した結果を送らないよう注意を必要とすることが改めてわかった。後半では、検査結果について考えるポイントとして、①性別・年齢・検査依頼科の確認、②異常値の把握、③項目の特徴や他項目との関連性、④患者背景を挙げた。どの診療科から検査依頼がされているかを知ること、どの検査項目が悪くなるかの推測をすることができ、結果から患者がどのような状態かも推測することが可能。その後、カルテを確認することでデータを見る力を養うこともできる。他項目との関連性では、AST/ALT比のような他項目との比を求めることで状態を推測できる。日当直では他分野の技師が携わることが多く、よくわからないと思う局面もあるが、患者の状態を推測しながらデータを読み解いていくことが大事である。

小林氏の「化学、ふしぎ？発見」の内容は、分析方法について、NADH系紫外外部吸収法（UV法）や過酸化水素POD法等の測定原理について、1試薬系や2試薬系の利点欠点、2波長法による色調の軽減法、溶血による影響ではLD、K、ASTが有名ではあるが、Feではどの程度影響を受けているかのデータを見ることができた。原理と特徴については、各項目様々な測定方法が存在するが、どのような理由でその測定方法が用いられているかの解説があった。例えば、蛋白質の定量法としてビウレット法が採用されているが、簡便さやアルブミンとグロブリンとの反応性に差が少ない特異性の面から採用されているなどを聞くことができた。最後に、標準化について国内の標準化と国際的な標準化の現状があった。近年変更のあったLDとALPについての主な変更点とその影響やその他の項目ではJSCC法とIFCC法でどのような違いがあり、IFCC法へ変更するには何が必要なかを知ることができた。

今回は日当直者向けと生化学初心者向けに2つの講演を行ったが、測定法の原理などの基礎を理解していないと実践で対応できない事例も多々あると思う。そのような点で今回も多くのことを学べた研修会であった。
(文責：杉村楓)

テーマ 尿中乱用薬物検査について

～ 違法薬物が陽性に出たら、警察に通報すべきか？ ～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2023年7月26日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点

講師：荒木 宏治（株式会社バイオデザイン）

参加人数：会員142名

出席した研究班班員：富井貴之 田崎恵 鈴木由美子 吉田翔平

研修内容の概要・感想など

本研修会は「尿中乱用薬物検査について ～違法薬物が陽性に出たら警察に通報すべきか？～」をテーマに荒木氏が講演した。

乱用薬物検査とは社会規範から逸脱した目的や方法で使用された向精神薬、睡眠薬などの医薬品や覚醒剤、大麻等の違法薬物を生体試料から検査する方法であり、意識障害で救急搬送された患者の原因究明や死因究明に使用されている。

薬物検査キットIVeX-screen®(株式会社バイオデザイン)は、尿検体で測定できるイムノクロマト法を用いた簡易検査であり、覚醒剤(METH)、大麻(THC)、コカイン(COC)、モルヒネ系麻薬(MOR)、ベンゾジアゼピン系薬物(BZD)、バルビツール酸系薬物(BAR)、三環系抗うつ薬(TCA)の7項目の薬物が確認可能とされている。通常、検査業務で用いられているコロナウイルス抗原検査やインフルエンザウイルス抗原検査では、反応層にラインが現れるのが陽性だが、この検査の場合、抗原固相競合法のためラインが現れないのが「陽性」と判定される。モルヒネ系(MOR)は、咳止めに含まれる「ジヒドロコデイン」により偽陽性になるため、風邪薬でも陽性を示す場合があることも覚えておきたい。

薬物検査の使用目的は、犯罪の摘発や死因の究明(検死)が主となっており、2007年愛知県犬山市の時津風部屋の宿舎で起こった入門2か月足らずの力士が、けいこ中に急死した事件で当初は病死と判断されが、解剖後外傷性ショック死とすることが判明した。この事件は、直接薬物とは関連はないが、このことがきっかけで薬物検査を実施するようになり、死因究明を向上させ犯罪の見逃し防止につながるようになった。また近年、自殺企図患者の半数が向精神薬の大量服用によるものが多く、若年層では市販薬の乱用によるオーバードーズが増加している。

違法薬物が陽性に出たら、警察に通報すべきか?については、通報すべき、または通報の必要なし、どちらにも対応できる法律があるとされ、個人の見解ではなく、病院としてどのように対応するのかを事前に決めておくことが大事であるとのことだった。

最新topicsでは、アルコール飲料に睡眠薬や向精神薬を混入させ、性的暴行に及ぶデートレイプドラッグ犯罪が増加しており、防止策として青色色素を錠剤に混和することで、アルコール飲料に入れると青色に変化するよう改善されている。

今回の研修会では、尿中薬物検査について、検査法、関係法規、最新のデータなど幅広い視点から学ぶことができ、興味ある内容の研修会であった。

(文責:鈴木由美子)

テーマ 凝固検査をわかりやすく!

主催 血液検査研究班

実施日時:2023年8月29日 19時00分~20時30分

会場:Web開催 教科・点数:専門教科-20点

講演1:凝固検査の基礎から遭遇する可能性のある異常値まで

講師1:須長 宏行(積水メディカル株式会社)

講演2:これだけは知っておきたい!凝固検査

講演2:久保山 健治(久留米大学病院 臨床検査部)

参加人数:会員220名 賛助会員5名

出席した研究班班員:中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 加藤鉄平 島田崇史 吉澤悟 石田沙妃

研修内容の概要・感想など

今回の講演は、凝固検査の基礎から臨床の現場で遭遇する異常値についてと幅広く網羅する内容であった。凝固検査では得られた異常値が検体の性状によるものか、装置・試薬および治療による影響なのかを判断しながら臨床に報告する必要がある。そのため、採血から検査値報告までの過程にどのような影響を及ぼす要因があるのか、その要因がどの程度データに影響を

与えるのかを理解しておかなければならない。採血では、手技や混和不良による検体凝集が多くみられ、再採血に繋がってしまう例が多い。採血者への適切な手技を周知し、測定前にはしっかりと検体の性状を確認することが重要である。検体によっては目視ではフィブリン析出がわからないこともあるため、スポイト等で確認したり、血算データなどで推測したりすることも大切である。フィブリン析出による影響が疑われた場合は、基本的には取り直しを行い、困難であれば検査中止とするのが望ましい。現場によっては参考値と言われることもあるかもしれないが、フィブリン析出した検体を用いた凝固検査は参考値としても不適であるため対応には注意すべきである。凝固検査測定試薬は、装置間差、試薬間差、同試薬でもロット間差が認められており、自施設で使用している装置・試薬の特性を知っておく必要がある。例えばAPTTでは検量線がないため、試薬ごと、ロットごとにデータに差異が生じる。また、ヘパリンやループスアンチコアグラント、凝固因子に対する感受性が試薬ごとに違うため、その点も理解し考慮しなくてはならない。また、治療や患者の病態も検査値に影響を及ぼす要因であり、心臓カテーテル検査後などでは検査時に使用した抗凝固薬が検査値に影響を与えるが、前述したように試薬によって影響度も変化する。敗血症によるDICでは炎症性蛋白であるフィブリノーゲンが上昇するため低値にならない場合があったり、WF使用患者の重篤出血時に「ケイツー」が使われるが、最近では「ケインセントラ (4F-PCC)」が使われたりと治療や疾患、治療薬についての知識も身につけられるとよい。このように凝固検査では、正しい検査値を得るために知っておくべきこと、考慮すべきことが多くあるため、日々の研鑽にて知識と技術を習得し、ときには臨床に採血状況や患者情報を確認しながら、検査を進めていくことが必須であると感ずる講演であった。

(文責：加藤鉄平)

テーマ 陰嚢超音波検査を覚えよう！ ～ 基本的な解剖と症例 ～

主催 生理機能検査研究班

実施日時：2023年8月31日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講師：石丸 直（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員197名

出席した研究班班員：野村和弘 新井雅人 小宮山英幸 工藤淳子 横尾愛 瀧沢義教
南雲涼太

研修内容の概要・感想など

今回企画した研修会は、石丸氏を招き、陰嚢超音波検査について開催した。講義は解剖の説明から始まり、正常超音波画像、症例提示という流れであった。特に精索捻転症は緊急性の高い疾患で、見逃さないよう注意深く観察することが大切である。典型例では患側の血流は消失するが、患側の精巣に血流が見られた場合でも精索のねじれが見られ、臨床所見と合致していれば積極的に疑う必要があるというメッセージが印象的であった。セミノーマと非セミノーマに関しては、患者の年齢や画像上、血液データ上の相違点からある程度の鑑別は可能である。しかし、典型的でない場合や両者が混在している腫瘍も少なくない。したがって報告書には、「精巣腫瘍」と書くのが適切であるということであった。

今回の研修会ではZoom投票機能を用い、3症例について解答を求めながら進行した。症例は、典型的な精索捻転症、非典型的な精索捻転症および精巣腫瘍であった。投票機能ではどの症例も解答が分かれる結果となったが、観察するポイントや症状の解釈について丁寧に説明され、症例への知識、ピットフォールへの理解を得ることができたと考える。聴講者からの質問は、

講義中の症例のみならず、カラーゲインや他の陰嚢疾患についても多くあり、日ごろ悩ましい場面に多く直面している様子がうかがえた。

陰嚢超音波検査はその部位の特性から練習できる機会や研修会が多くない。顔を出さない状態で気軽に参加、質問できるWeb開催は非常に有用であると感じた。(文責：南雲涼太)

テーマ **乳腺超音波検査に役立つ！ マンモグラフィ読影解説付き乳腺症例検討会**

主催 生理機能検査研究班

実施日時：2023年9月1日 18時30分～20時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講師 1：野口 真弓（医療法人日伸会 かなこレディースクリニック・一般社団法人乳がん予防医学推進協会 理事）

講師 2：野澤 亜樹（日本医療伝道会 衣笠病院・一般社団法人乳がん予防医学推進協会 代表理事）

参加人数：会員201名 非会員1名

出席した研究班班員：南雲涼太 瀧沢義教 小宮山英幸 工藤淳子 横尾愛

研修内容の概要・感想など

昨年度当研究班が企画した乳腺超音波研修会は聴講者から好評であり、今年度も企画した。

研修会講師は昨年同様、神奈川県臨床検査技師の野口氏と診療放射線技師の野澤氏にお願いした。最初に野澤氏よりマンモグラフィの読影方法等について初心者にも分かりやすい解説があり、続いて両氏による乳腺超音波症例と対比したマンモグラフィ画像の提示、双方の読影について解説があった。今回の研修会では参加予定者に乳房シェーマを事前配布した。マンモグラフィから病変がシェーマのどの部位にあるのか、またカテゴリー分類はどれにあたるのかなどを考え記入してもらう形式でおこなった。供覧したのは8症例で、全てマンモグラフィと超音波での画像から腫瘍診断フローチャートを用いての評価法、さらに最終的な病理診断結果までの解説がおこなわれた。また、経験則から導き出される考え方等の補足もあり、聴講者に分かりやすい、丁寧な講義であった。聴講者から数多く質問が寄せられており、関心の高さがうかがえた。

今回の研修会で参加者の方々が新しい知識を習得され、今後の業務の一助となれば幸いである。(文責：横尾愛)

テーマ **血液検査の専門資格取得を目指して**

主催 血液検査研究班

実施日時：2023年9月13日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：血液担当者必見!! 二級・認定試験を取得するためには

講師 1：石田 沙妃（学校法人明星学園 国際医療専門学校）

講演 2：認定骨髓検査技師取得に向けて

講師 2：圓田 和人（株式会社TLC 戸田中央臨床検査研究所）

参加人数：会員159名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 加藤鉄平 島田崇史 吉澤悟 石田沙妃

研修内容の概要・感想など

講演1では二級血液検査士試験と認定血液検査技師試験について試験の概要から対策について話があった。二級血液検査士試験は日本臨床検査同学院が発行する資格で、血液部門以外にも生化学や免疫学、病理学等もある。血液部門の試験は、基本的に5択40問の筆記試験、使用試薬や器具、検査方法について問う記述試験、写真から細胞や疾患を判読する形態試験、塗抹標本染色や凝固検査を用手法で行う実技試験で行われる。認定血液検査技師の資格は、経験年数や日本検査血液学会に入会してから2年以上経過している必要があるなど受験資格に規定がある。試験は、写真から細胞所見や検討すべき追加検査、考えられる疾患を答える症例解析試験、フォトサーベイの様に細胞を判定していく細胞識別試験、細かい専門知識が問われる選択式の筆記試験で行われる。このような詳細な試験概要と勉強の仕方など体験談を交えながら講演が行われた。

講演2では、認定骨髓検査技師資格について話を聞くことができた。骨髓検査技師資格は、受験するにあたり認定血液検査技師を取得して一度、更新している必要があり、願書提出の際には骨髓検査所見報告書を20症例提出する必要がある。試験は50問の筆記試験、認定血液検査技師試験と同様に細胞の判定を行う細胞識別試験とバーチャル画像を用いたカウントや症例解析を行うバーチャル画像試験の二種類の実技試験で行われる。これらの試験概要を実際の症例を用いて報告書の書き方や考え方を踏まえて講演が行われた。

2つの講演では成功談や失敗談を含めた体験談も聞くことができ、今年度に受験を控えている人だけでなく、これから資格取得を考えている人にもモチベーションアップにつながる内容であった。

(文責：加藤鉄平)

テーマ **2023年 認定試験直前!! 細胞診セルフチェック 第2弾**

主催 細胞検査研究班

実施日時：2023年9月14日 18時00分～19時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科-20点

講演1：呼吸器領域

講師1：鈴木 隆（独立行政法人地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター）

講演2：消化器・唾液腺領域

講師2：勝平 理子（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演3：泌尿器・体腔液領域

講師3：大谷 奈穂（埼玉県済生会川口総合病院）

参加人数：会員195名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 加藤智美 野本伊織 稲山拓司
並木幸子 小川弘美 猪山和美

研修内容の概要・感想など

本研修会は、細胞検査士認定試験の合格を目指す受験者や細胞検査士が細胞像の復習を行うことを目的として、例年シリーズ化して開催している。今回の研修会は第2弾として呼吸器領域、消化器・唾液腺領域、泌尿器・体腔液領域から写真問題の提示と解答の解説を実施した。

講演1では、鈴木氏より呼吸器領域から計10問の細胞像の提示と解答の解説が行われた。呼吸器領域は喀痰や気管支洗浄液、腫瘍捺印など多様な採取法での細胞像が提示され、アスペストやクリプトコッカスなどの感染症から腺癌、扁平上皮癌など出題頻度の高い悪性細胞まで網羅された内容であった。解説では各組織型におけるの着目点や鑑別点を押さえた内容であった。

講演2では、勝平氏より消化器領域から7問、唾液腺領域から3問、計10問の細胞像の提示と解答の解説が行われた。解説ではそれぞれの分野において、組織型を推定するために必要な細胞像の解説を主軸とし、腺房細胞と腺房細胞癌など良悪性の鑑別に必要な点もふまえた解説であった。

講演3では、大谷氏より泌尿器・体腔液領域から各5問ずつ、計10問の細胞像の提示と解答の解説が行われた。泌尿器領域では高異型度尿路上皮癌の細胞のとらえ方や悪性細胞と間違えやすい良性細胞との鑑別点について解説が行われた。体腔液領域では異型細胞が出現した場合の診断アプローチの方法をはじめとして、中皮細胞や悪性中皮腫、腺癌との鑑別方法について解説があった。

本研修会は細胞検査士認定試験と同様の形式をとっており、受験者にとっては限られた時間のなかで解答することで本番と同様の予行練習もできる内容であったと思われる。また日常業務では判定することの少ない症例もあり、経験者にとっても良い復習の機会となる勉強会であった。

(文責：並木幸子)

テーマ エキスパートが教えるグラム染色の魅力

主催 微生物検査研究班

実施日時：2023年9月22日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講師：佐々木 雅一（東邦大学医療センター大森病院）

参加人数：会員41名 賛助会員2名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 岸井こずゑ 今井英美 佐々木真一 伊波嵩之
大塚聖也 渡辺駿介

研修内容の概要・感想など

今回は「エキスパートが教えるグラム染色の魅力」をテーマに研修会を開催した。症例をもとにグラム染色について考えていく内容であり、各セクションの症例内容は以下の通りであった。

セクション1は、抗菌薬投与中患者の喀痰から検出されたMRSAの症例であった。MRSAは呼吸器検体から分離されることがしばしばある。本菌が起炎菌か保菌かは慎重に判断する必要があると解説があった。

セクション2は、喀痰から検出された *Streptococcus anginosus group* の症例であった。本菌は咽頭や腸管内の常在菌として知られているが、近年では嚢胞性線維症の病原体として認識されている。グラム染色所見にてグラム陽性球菌が優位で貪食像があり、化膿性疾患を強く疑う場合は常在菌として見逃さないように注意が必要であると解説があった。

セクション3は、肺炎患者の喀痰から *Corynebacterium* 属菌の貪食像が多数認められる症例であった。本菌は薬剤の耐性傾向が強いため、抗菌薬投与により残存した可能性が考えられる。患者の経過を確認し、適切な治療のために医師との相談や結果報告時のコメントに工夫が必要であると解説があった。

セクション4は、ノカルジアの症例において観察すべき標本の位置について解説があった。ノカルジアは白血球に取り囲まれた扁平上皮細胞の集塊に存在する可能性が高い。そのため、弱拡大で細胞の集塊を観察するのがポイントであると解説があった。

セクション5は、ANCA関連血管炎患者でCT画像にて肺に空洞病変を認めるクリプトコッカスの症例であった。本菌は免疫不全と空洞形成に関連がある。免疫不全の種類や空洞性病変の原因菌を把握しておくことが重要であると解説があった。

セクション6は、「見えない敵」と題し、レジオネラの症例が紹介された。本菌はグラム染色で染まりにくい。検体の肉眼的所見がポイントで痰がオレンジ色を呈する場合、本菌の存在を推定する。標本中に起炎菌が見えない場合はその原因を追究するとともに、グラム染色では確認が困難な菌の想定が必要であると解説があった。

セクション7は、「もっと見えない敵」と題し、*Mycoplasma hominis*の症例が紹介された。本菌は主に骨盤内膿瘍の原因菌となるが、グラム染色で染まらず、培養も時間がかかるため結果の報告が遅れてしまう。迅速に報告する方法としてアクリジンオレンジ染色が紹介された。

今回はWebでの研修会が始まって以降、初の現地開催であった。各セクションでスマートフォンを用いて解答できるクイズが出題され、参加型形式で進められた。参加者の反応を直接見ることができ、改めて現地開催の良さを強く感じる事ができた。また、クイズを通して、グラム染色は情報1つで見え方が変わってくることを考えさせられた。検査の目的、菌の特徴、患者情報を理解し、グラム染色と合わせて微生物検査を組み立てることが理想である。グラム染色の奥深さや日常業務で実践できる知識を学ぶことができた研修会であった。

(文責：大塚聖也)

テーマ 輸血実技研修会参加者必須講座 ～ 輸血検査の手技、判定方法、注意点など ～

主催 輸血検査研究班

実施日時：2023年9月27日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：血液型検査

講 師 1：比嘉 絢子（地域独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター）

講 演 2：不規則抗体検査

講 師 2：小原 佑太（医療法人社団東光会 戸田中央総合病院）

参加人数：会員154名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 小原佑太 比嘉絢子 廣田渉 川内沙織

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、先に開催される輸血実技研修会の事前講習会として開催した。

実習項目である血液型検査と不規則抗体検査について、主に手技のポイントの解説が行なわれた。

比嘉氏の講演では、始めにABOとRhD血液型検査の意義について、その後試験管法で血液型検査を実施する際に使用する器具の使い方や試薬の分注の仕方、血球浮遊液の作成法、凝集の見方などについて細かな説明があった。輸血業務初心者の受講者は、用手法の基本的な正しい操作方法およびミスが減らすためのポイントを学ぶことができた。一方で、輸血業務に慣れている受講者は、自己流になりがちな操作手技を見直すきっかけになったと思われる。

小原氏の講演では、不規則抗体と臨床的意義の説明から始まり、スクリーニングが陽性の場合の検査の進め方、さらに抗体同定の要となる可能性の高い抗体および否定できない抗体を絞り込む『消去法』について詳細な説明があった。

実技研修会参加者は、実技研修会で今回の内容を実践することによって手技等の確認をし、正しい技術を習得することによって、患者に安全な輸血医療を提供できることに期待したい。

(文責：久保居由紀子)

令和5年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第7回 理事会議事録

日 時：令和5年10月12日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席

(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 長澤

松寄 阿部 松尾 佐瀬 網野

三木 塚原 神嶋 伊藤(恵)

伊藤(隆) 石井 神戸 小林

長岡 長谷川

(Zoomにて参加) 神山 久保田

(監事)細谷

欠 席：遠藤

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和5年9月14日～令和5年10月11日)

9月14日(木)～17日(日)

日臨技中四国支部学会：神山

9月14日(木)令和5年度第6回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)、三木、長岡、久保田、長谷川、神戸、石井、小林、遠藤、細谷

9月14日(木)事務局部会：松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部

9月17日(日)タスクシフト指定講習会

(埼玉 018)：松岡、猪浦、濱本、

松寄、石井、松尾、伊藤(恵)、佐瀬

9月21日(木)第51回埼玉県医学検査学会実行委員会：佐瀬

9月22日(金)日臨技支部長連絡会議：神山

9月22日(金)日臨技理事会事前会議：神山

9月23日(土)日臨技役員研修会：神山

9月23日(土)日臨技理事会：神山

9月23日(土)ワークライフバランス推進委員会研修会：神嶋、塚原

9月25日(月)第18回深谷市福祉健康まつり実行委員会：伊藤(隆)

9月26日(火)さいたま市衛生検査所立ち入り検査：神山

9月26日(火)第2回研究班運営委員会：松岡、長岡、長谷川、久保田、阿部、神戸

9月28日(木)さいたま市衛生検査所立ち入り検査：神山

9月29日(金)さいたま市衛生検査所立ち入り検査：神山

10月5日(木)第23回わらび健康まつり実行委員会：塚原

10月7日(土)日臨技執行理事会：神山

10月7日(土)日臨技学術会議：神山

10月9日(月)日本医業経営コンサルタント協会主催講演会：神山、猪浦、松寄、塚原、佐瀬、伊藤(隆)、小林、三木

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 9月14日(木)事務局部会を開催した。

(別紙資料1)

2) 9月28日(木)日臨技より政策渉外関連調査における施設登録について依頼があった。

2 総務部

1) 9月17日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県 018)を開催した。(別紙資料2)

2) 9月23日(土)埼臨技HPに、2023年度各委員会・各研究班名簿を掲載した。

3) 10月15日(日)だより第533号発行予定。

- 4) 10月15日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県 019)を開催予定。運営責任者は猪浦副会長
- 5) 2023年度会員名簿を12月発送に向けて現在作成中。

3 事業部

- 1) 9月23日(土)ワークライフバランス推進委員会研修会を開催した。(別紙参照3)
- 2) 9月25日(月)第18回深谷市福祉健康まつり第2回実行委員会へ参加した。(別紙参照4)
- 3) 10月5日(木)第23回わらび健康まつり第3回実行委員会へ参加した。(別紙参照5)
- 4) 全国「検査と健康展」後援を各団体へ依頼した。
- 5) 全国「検査と健康展」チラシを「たまログ」へ掲載、市民へ配布予定。(別紙参照6)
- 6) 健康イベント(深谷・蕨・検査と健康展・糖尿病相談)実務委員の生涯教育点数付与を生涯教育委員会へ依頼する。

4 学術部

- 1) 9月26日(火)令和5年度第2回研究班運営委員会を開催した。(別紙資料7)
- 2) 10月2日(月)生涯教育研修プログラム(12・1月)を埼臨技HPへ掲載した。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 1) 令和5年度正会員費9名45,000円、入会金9名9,000円、合計54,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金50,000円の入金があった。
- 3) 石井印刷に埼臨技だより532号Web PDF 12P 59,400円を支払った。

7 精度管理委員会

特になし

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 日臨技

特になし

11 第51回埼玉県医学検査学会

- 1) 9月21日(木)第12回実行委員会を開催した。(別紙資料8)

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和5年度分)

令和5年10月1日現在
会員数 3,615名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 268名)
賛助会員 71社[令和4年度 71社]
承認された。

- 2) 事務所年末年始休暇について

埼臨技事務所の休暇について令和5年12月28日(木)から令和6年1月4日(木)までとしたい。

上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

- 1) 埼玉県医学検査学会運営規程・細則の改定について (別紙資料9)

上記の件について、阿部健一郎総務部長から発言があり、審議の結果、学会運営規程細則の改定のみ承認された。

3 事業部

特になし

4 学術部

- 1) 血液検査研究班実技研修会の協賛について
12月17日開催予定の研修会について、シスメックス株式会社より鏡検実習で使用する画像共有機器の借用について承認いただきたい。

上記の件について、長岡勇吾学術部長から発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 研究班運営マニュアル「施設利用許可願(書式9)」の改訂について(別紙資料10)

上記の件について、長岡勇吾学術部長から発言があり、審議の結果、文書雛型を一部修正し、三役確認することで承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第51回埼玉県医学検査学会

1) 学会実行委員会からの上程事項について

1) 各研究班から当日実務委員への選出を依頼したい(各研究班3名)。あわせて埼臨技事務員2名について実務委員を依頼したい。

2) 検査と健康展で使用する研究班作成ポスターを小ホールホワイエの展示会場でも使用したい。

上記の件について、三木隆治学会担当理事より発言があり、審議の結果承認された。

IV. 議題

1 事務局

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



お知らせ

埼臨技事務所の年末年始の休暇について

令和5年12月28日(木)～令和6年1月4日(木)

上記の期間は埼臨技事務所がお休みになります。

1月5日(金)より通常業務となります。

あ と が き

ラグビーの用語として「One for all, All for one」というものがあります。

一昔前のTVのラグビードラマやラグビーワールドカップ開催などで知っている方もいると思います。

日本ではこの言葉を「ひとはみんなのために、みんなはひとりのために」と訳していることが多いのですが、「ひとはみんなのために、みんなは一つの目標(one)に向かって」という意味合いがあると知りました。

私も、最初は前者のように理解していました。「いろいろな集団で生活していく上では、一人一人の個性・役割を皆のために果たし、一つの目標を達成する」という素敵な意味合いのある言葉だと知り、好きな言葉の1つとなりました。

仕事などでも同じ、一人一人ができることを、一つの目標に向かって結束していくことが大きな力になると思います。

(松寄 記)

